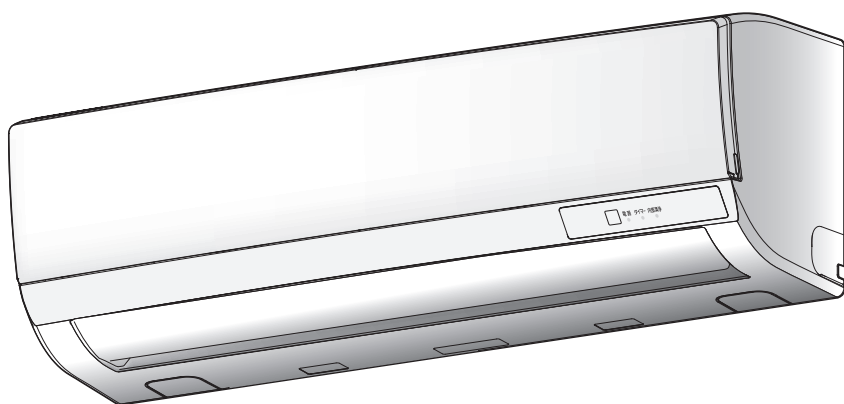


取扱説明書

ルームエアコン

(室内・家庭用)

室内機 型番： 室外機 型番：
IRR-2222C IUF-2222



最新の取扱説明情報は当社 WEB サイトでご覧いただけます。

<https://www.irisohyama.co.jp/products/manual/categori.asp?cid=3&bid=66>



この商品は海外ではご使用になれません。
FOR USE IN JAPAN ONLY

このたびは、お買い上げいただきまことにありがとうございます。

- この取扱説明書をよく読んで、正しく使用してください。
- 使用する前に「安全上の注意」を必ず読んでください。
- この取扱説明書は使用する方がいつでも見ることができるよう大切に保管してください。
- 「保証書」は「お買い上げ日」「販売店名」の記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

もくじ

ご使用の前に

安全上の注意	2
使用上の注意	5
リモコンについて	5
各部の名称	6

取り扱いかた

使いかた	9
お手入れ	13

こんなときには

故障かな？と思ったら	15
長期使用製品について	17
仕様	18
保証とアフターサービス	19

安全上の注意

最初に、この「安全上の注意」をよく読んでいただき、正しく使用してください。
人への危害や、財産への損害を未然に防止するため、必ず守る必要があることを説明しています。

図記号の意味



注意を促す記号です。



禁止を示す記号です。



必ず行うことを示す記号です。



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う
おそれがある内容を示しています。

電源プラグ・電源コードについて



- 電源プラグのほこりは定期的に取り
ほこりがたまると、湿気などで絶縁不良
になり、火災・感電の原因になります。
- 電源プラグはコンセントの奥まで確実
に差し込む
ショートによる火災・感電の原因になります。
- 電源は必ずルームエアコン専用のコン
セントに接続する
他と共用のコンセントや古いコンセント
は使用しないでください。火災・感電の原
因になります。



ぬれ手禁止

- ぬれた手で電源プラグの抜き差しをし
ない
感電・やけど・けがの原因になります。



- 電源コードをたばねて通電しない
過熱してやけど・火災の原因になります。
電源コードは、必ずのびして使用してくだ
さい。
- 電源コードや電源プラグが傷んだり、
コンセントの差し込みがゆるいときは
使わない
ショートによる火災・感電の原因になりま
す。電源コードが破損したときは、アイリ
スコールへお問い合わせください。
- 電源コードを傷付けない
- 電源コードをステーブルなどで固定し
ない
傷つける、加工する、無理に曲げる、引っ
張る、ねじる、重い物を載せる、挟み込む
などしないでください。
電源コードが破損し、火災・感電の原因に
なります。
- 延長コードは使用しない
- 電源コードを抜いてエアコンを停止し
ない
火災・感電の原因になります。

設置について



- 設置・移設はお買い上げの販売店また
は設置専門業者に依頼する
自分で行うと、火災・破裂・感電・けが・
水もれの原因になります。
- アース工事は販売店または専門業者に
依頼する
アースが不完全だと、感電の原因になりま
す。
- 室内機の配管取り出し口が、移設など
で開いてしまったときは、開口部をふ
さぐ
内部の回路に触れると、感電・けが・やけ
どのおそれがあります。
- アース線は、ガス管や水道管、電話線
や避雷針のアース線には絶対に接続し
ない
爆発・火災の原因になります。
- 指定の冷媒（R32）以外は使用禁止
本製品はR32専用です。他の冷媒とまざ
ると有害な不純物が発生する可能性があ
ります。

異常時には



プラグを抜く

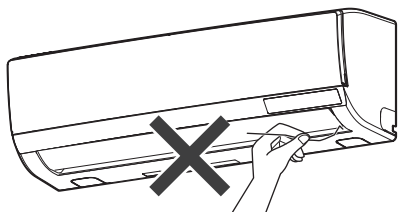
- 直ちに使用を中止し、電源プラグをコ
ンセントから抜く
発煙・火災・感電のおそれがあります。
【異常の例】
 - ・ 内部に水・異物などが入った
 - ・ 異常な音やにおいがする
 - ・ 変形したり、ひび割れしたりしている
 - ・ 電源プラグ・電源コードが異常に熱くな
る
 - ・ 電源コードを動かすと、通電したりしな
かったりする
 - ・ 触れるとピリピリ電気を感じる➡使用を中止し、お買い上げの販売店または
アイリスコールへお問い合わせください。

禁止事項



- 吹き出し口・吸気口・すき間から物や手を入れない

内部には高速回転するファンや高電圧部があるので、感電やけがの原因になります。



水ぬれ禁止

- 室内機本体を水につけたり、本体に水をかけない

火災・感電の原因になります。



- 内部の洗浄は自分で行わないでください。

誤った方法で内部の洗浄を行うと、破損して火災や感電の原因になります。エアコン内部の洗浄は専門の業者に依頼してください。



注意

誤った取り扱いをすると、人がけがをしたり、物的損害が発生するおそれがある内容を示しています。

リモコンの電池についての注意



- 電池を入れるときは、極性表示（プラス+とマイナス-の向き）に注意し、説明書の通りに正しく入れる

間違えると、破裂・液もれにより、火災やけが、周囲を汚損する原因になります。

- 長期間使用しないときは電池を取り出しておく

液がもれて、火災やけが、周囲の汚損の原因になります。

液がもれた場合は、電池ケースに付いた液をよく拭き取ってから、新しい電池を入れてください。万一、もれた液が身体に付いたときは、水でよく洗い流してください。



分解禁止

- 分解しない

皮膚や衣服を損傷することがあります。



- 金属製の小物類と一緒に携帯・保管しない

ショートして液もれや破裂の原因になることがあります。

- 指定以外の電池は使用しない

過熱・破裂・液もれにより、火災やけが、周囲を汚損する原因になることがあります。

- 乾電池は絶対に充電しない

破裂・液もれにより、火災・けが・やけどの原因になります。

室内機について



- 室内機の下に他の電気製品や家財を置かない

水滴が落ちることがあり、汚損や故障の原因になります。

- 室内機の上に物を載せない

- 室内機に洗濯物などをかけない

落下して、けがや火災の原因になります。また、風の流れをふさぐと、過熱して火災の原因になります。

- 吹き出し口・吸気口を布や紙、ビニール袋でおおったりふさいだりして運転しない

- 風の流れをさえぎるようなものを周囲に置かない

過熱して火災の原因になります。

お手入れについて



- 前面パネルやエアフィルターを水洗いしたときは、水気を拭き取って、よく乾かしてから取り付ける

水気が残っていると感電の原因になります。



- お手入れのときは、不安定な台に乗らない

転倒してけがの原因になります。

- 室内機内部の金属部に触れない

けがをするおそれがあります。

安全上の注意 つづき

使用上の注意



- 食品・医薬品・美術品・学術資料の保存など、業務・特殊用途に使用しない
本製品は家庭用として設計されています。業務・特殊用途に使用すると、保存品の劣化の原因になります。

- 長時間冷風を身体に当てない

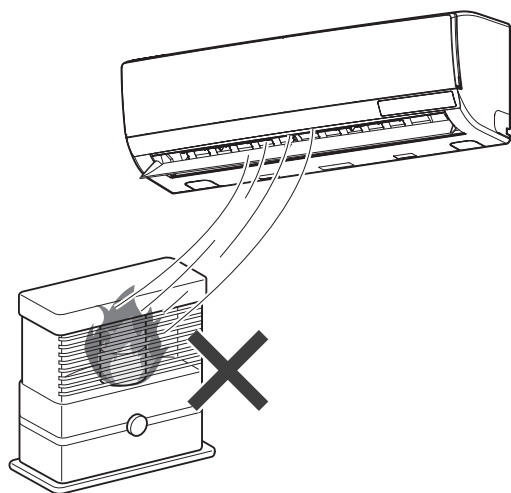
- 冷房温度を下げすぎない

特に、小さなお子様やお年寄りには注意してください。体調が悪化したり健康を害する原因になります。

- 動植物に直接風を当てない

害を与えるおそれがあります。

- 風をストーブなどの燃焼器具に向けない
不完全燃焼や炎の飛散を引き起こし、一酸化炭素中毒や火災の原因になります。



- 煙や霧が出るくん煙タイプの殺虫剤を使うときは運転しない

エアコン内部に薬剤成分が蓄積し、その後の運転で放出されて、健康を害するおそれがあります。殺虫剤の使用後は、十分換気してから運転してください。

- 床にワックスがけをするときは運転しない

エアコン内部にワックス成分が付着し、水もれの原因になります。ワックスがけの後には、十分に換気してから運転してください。



- 燃焼器具と一緒に使う場合は換気する
一酸化炭素中毒の原因になります。

※ 本製品は、一酸化炭素などの有害物質を除去するものではありません。

ドレン水について



- ドレン水が確実に排水されていることを確認する

水もれてして周囲を汚損する原因になります。

特に、冷房シーズンの始まりには注意してください。ドレンホース（排水管）の勾配が適切に付いていなかったり、詰まっていたりすると水もれの原因になります。

電源プラグ・電源コードについて



プラグを抜く

- 長期間使わないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く

絶縁低下により、火災・感電の原因になります。

- お手入れするときは、必ず運転を停止して、電源プラグを抜く

けがの原因になります。

- 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず電源プラグを持って引き抜く

電源コードが破損し、火災・感電の原因になります。

異常時は



- エアコンを運転しても冷えない・暖まらないときは、販売店または修理専門業者に相談する

冷媒がもれているおそれがあります。冷媒自体は無害ですが、室内にもれて、他のガスと混合したり、火気に触れたりすると、有害な成分が発生する原因になります。

室外機について



- 1年に1度は、室外機の設置台などが傷んでいないか確認する

落下・転倒によるけがの原因になります。



- 上に乗ったり、物を載せたりしない

落下・転倒によるけがの原因になります。

- 室外機をシートなどでおおったり、周囲に物を置いたりしない

過熱して火災の原因になります。

- 室外機の周囲にごみや落ち葉をためない

小動物が侵入し、漏電や火災の原因になります。

使用上の注意

- 暖房運転時は、室外機に霜が付くのを防止するために、自動で霜取りを行います。
霜取り運転中は、暖房が停止し、室内機から冷風が出ることがあります。霜が溶けるときに、室外機から湯気や水が発生することがあります。

- 落雷のおそれのあるときは、運転を停止し、電源プラグを抜いてください。
被雷すると故障の原因になります。

廃棄について

- 製品や梱包材の廃棄については、お住まいの自治体の取り決めにしたがって処理してください。

冷媒に関する注意



この家庭用エアコンには、GWP（地球温暖化係数）が675のフロン類（R32）が封入されています。フロン類が排出されると地球温暖化が進みます。移設・修理・廃棄するときは、フロン類の回収が必要です。

廃棄に関する注意

家電リサイクル法では、お客様が使用済みのルームエアコンを廃棄される場合は、収集・運搬料金、再商品化等料金をお支払いいただき、対象商品を販売店や市町村に適正に引き渡すことが求められています。

リモコンについて

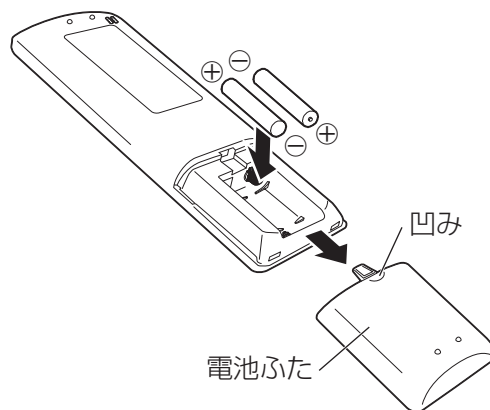
リモコンの表示部に□マークが点灯、もしくは点滅したときは、早めに電池を交換してください。（→P8）

■電池の交換方法

新しい電池（単4形乾電池×2本）を用意し交換してください。

電池ふたを開け、電池を入れ替える

1. 電池ふたの凹みを押さえながら下にずらして開けます。
2. 古い電池を取り出し、⊕と⊖の向きを合わせて、新しい電池を入れます。
3. 電池ふたをしっかり閉めてください。

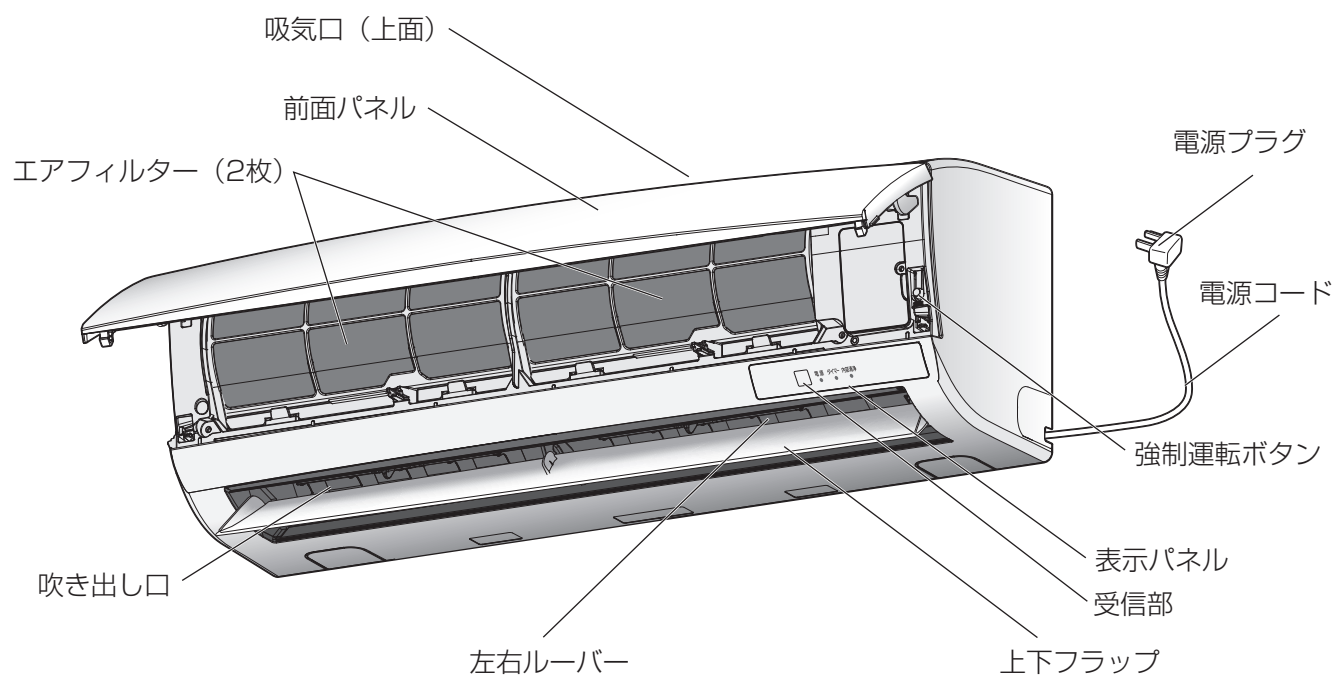


注意

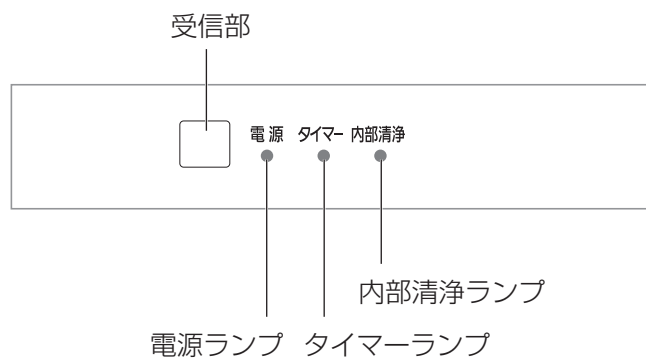
- 電池を誤って取り扱うと、破裂・液もれ・やけど・周囲の汚損の原因になります。3ページ「リモコンの電池についての注意」をよく読んで使用してください。
- 新旧、異種の乾電池を混ぜて使用しないでください。

各部の名称

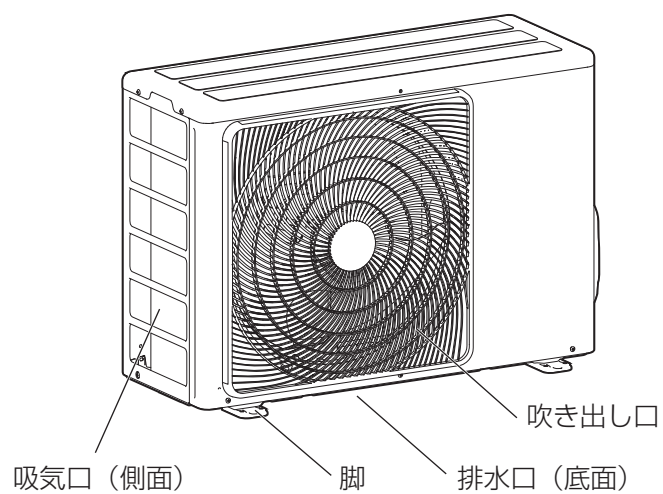
■室内機



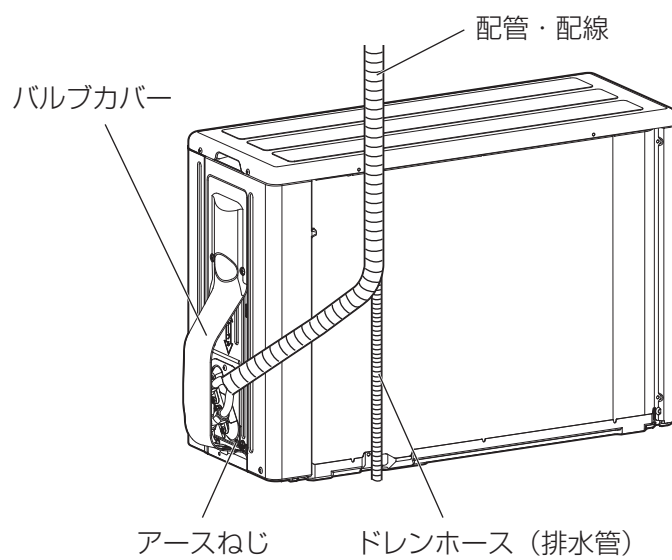
■表示パネル（室内機）



■ 室外機正面



■ 室外機背面



各部の名称 つづき

リモコン

送信部

室内機表示パネルの受信部に向けて操作してください。

運転モードボタン

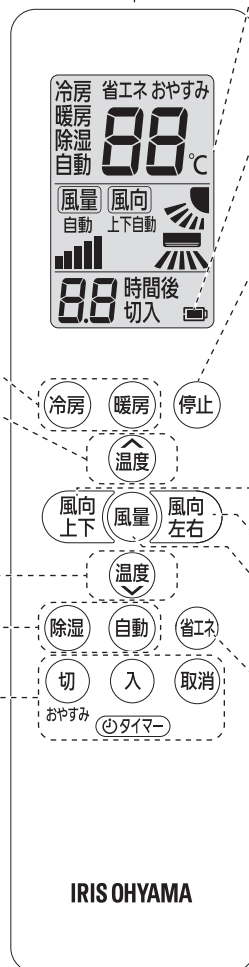
ボタンを押すと、選んだモードで運転が始まります。運転中に押すと、選んだモードに切り替わって運転します。(→P9)

温度 $\wedge$ $\vee$ ボタン

運転中に設定温度を変更します。
16～30℃の範囲で設定できます。
(→P9)

タイマーボタン

切 (おやすみ) ボタンを押すごとに、おやすみタイマーの設定時間が1時間増加し、おやすみタイマーがスタートします。おやすみタイマー設定中は1時間ごとに設定温度が1℃ずつ変わります。(→P11)
入 ボタンを押すごとに設定時間が1時間増加し、入タイマーがスタートします。**取消** ボタンを押すとタイマーは取り消されます。(→P12)



表示部

運転中に、運転の状態や設定温度・タイマー設定時間などを表示します。

電池残量表示

□マークが点灯、もしくは点滅したときは、早めに電池を交換してください。(→P5)

停止ボタン

運転中に押すと、運転が停止します。
(→P9)

風向上下ボタン

運転中にボタンを押すたびに上下フラップの角度が変わります。**風向上下自動**にすると、運転モードの違いや部屋の温度により、自動で上下フラップの角度を調節します。(→P10)
運転を停止すると上下フラップは閉じます。

風向左右ボタン

運転中にボタンを押すたびに左右ルーバーの角度が変わります。スイングにすると、左右ルーバーが動いて左右にまんべんなく風を送ります。(→P10)

風量ボタン

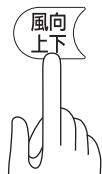
冷房または暖房運転中に押すと、風量が切り替わります。(→P9)

省エネボタン

冷房運転中に、ボタンを押すと省エネ運転します。(→P10)

■ 風向調節（上下）

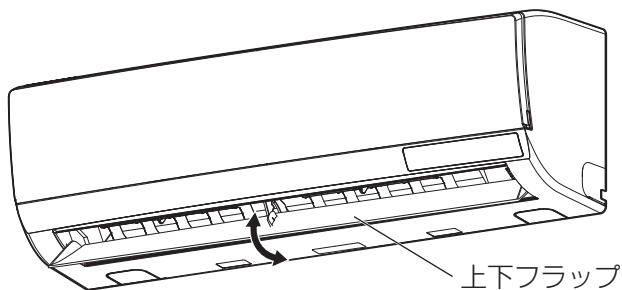
風向上下ボタンで変更する



- ・運転中に風向上下ボタンを押すと、リモコンの表示部が次のように切り替わり、上下フラップの角度を変更できます。



- ・スイングにすると、上下フラップが上下にスイングして、まんべんなく風を送ります。
- ・風向上下自動にすると、運転モードの違いや部屋の温度により、自動で上下フラップの角度を調節します。



注意

- 室内機内部の金属部に触らないでください。
けがをするおそれがあります。

■ 風向調節（左右）

風向左右ボタンで変更する

- ・運転中に風向左右ボタンを押すと、リモコンの表示部が次のように切り替わり、左右ルーバーの角度を変更できます。



- ・スイング中にもう一度風向左右ボタンを押すと、お好みの位置で左右ルーバーは止まります。



■ 省エネ運転（冷房モード時）

冷房モードで運転中に省エネ運転にすると、無駄な冷やしすぎを抑えて、電気代を節約します。※

省エネ運転するには、冷房モードで運転中に省エネボタンを押す



- ・リモコンの表示部に省エネと表示されます。
- ・設定温度が23℃以下の場合は、自動的に設定温度24℃に移行し、設定温度が24℃以上の場合は、その温度で省エネ運転します。

省エネ運転を終了するには、再度省エネボタンを押すか、他のボタンを押す



- ・設定温度23℃以下では省エネ運転は対応しません。手動で23℃以下に変更した場合は、省エネ運転は終了します。
- ・停止ボタンを押して運転を終了したときも、省エネ運転は終了します。
- ・冷房以外のモードにしたときも、省エネ運転は終了します。

※ 当社試験環境試験室（15.8㎡）にて、外気温30℃、湿度50％、室内温度30℃、設定温度24℃にて、冷房運転。

通常運転と省エネ運転で、8時間運転後の消費電力量を比較（通常運転：3.86kWh、省エネ運転：1.25kWh）

■タイマー

おやすみタイマー

おやすみタイマー設定中、冷房時は徐々に温度を上げ、暖房時は徐々に温度を下げて、急激な温度変化をなくし、快眠をサポートする機能です。

おやすみタイマーは切（おやすみ）ボタンを押して設定する



- ・切（おやすみ）ボタンを押すたびに、リモコンの表示部に時間が表示され、点滅します。その後、切だけ表示部に表示され、おやすみタイマーがスタートします。

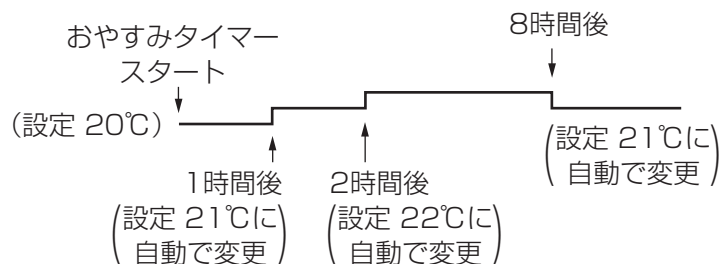


- ・設定時間が経過すると、室内機の電源ランプが消灯し、上下フラップが閉じて、運転が停止します。
- ・おやすみタイマーは、1時間単位で24時間まで設定できます。
- ・おやすみタイマー動作中は室内機のタイマーランプが点灯します。
- ・リモコンの表示部に**おやすみ**が点灯します。

冷房運転の場合

- ・冷房運転中におやすみタイマーを設定すると、風量は自動になり、1時間ごとに1℃設定温度を上げて運転します。（最高30℃まで）
- ※ 設定温度が変わらない切タイマー設定はできません。

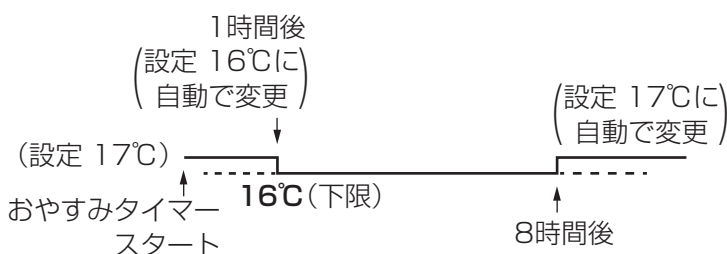
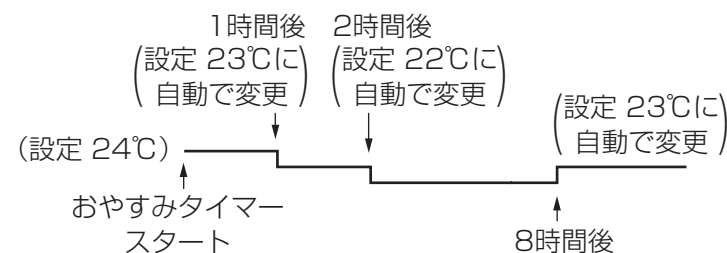
例（冷房運転）



暖房運転の場合

- ・暖房運転中におやすみタイマーを設定すると、風量は自動になり、1時間ごとに1℃設定温度を下げて運転します。（最低16℃まで）
- ※ 設定温度が変わらない切タイマー設定はできません。

例（暖房運転）



使いかた つづき

入タイマー

入タイマーは入ボタンを押して設定する



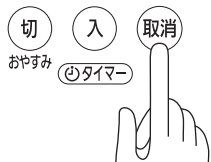
- 入ボタンを押すたびに、リモコンの表示部に時間が表示され、点滅します。その後、入だけ表示部に表示され、入タイマーがスタートします。



- 設定時間が経過すると、室内機の電源ランプが点灯し、上下フラップが開いて、運転が始まります。
- 入タイマーは、1時間単位で24時間まで設定できます。
- 入タイマー動作中は、室内機のタイマーランプが点灯します。
- おやすみタイマーと入タイマーは、同時に設定できません。

タイマーを取り消すには、取消ボタンを押す

- 設定されていたタイマーはキャンセルされ、タイマーランプは消灯します。



内部清浄機能

内部をきれいな状態に保つための機能です。

冷房または除湿を10分以上運転した後に停止すると、内部清浄が始まる

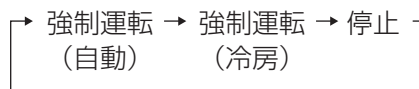
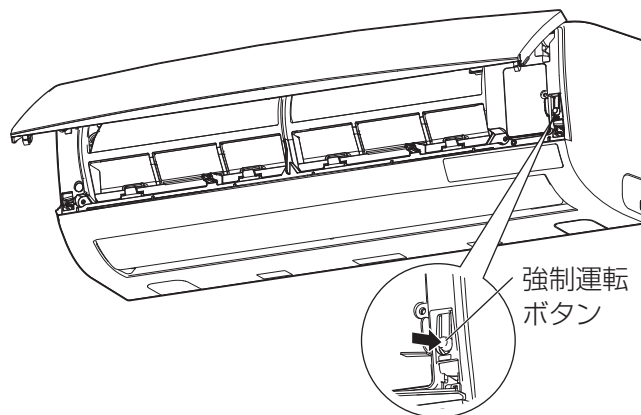


- 室内機の内部清浄ランプが点灯します。
 - 室外機と室内機は風量を低速にして10分間運転した後、内部清浄は停止します。
- ※ 暖房または自動運転の停止後は、一旦冷房または除湿運転にしないと内部清浄機能は動作しません。

強制運転

リモコンで操作できないときに、強制的に運転させる機能です。

- 室内機の前面カバーを開け、強制運転ボタンを押します。ボタンを押すたびに以下のように切り替わり、強制運転します。



- 設定温度は24℃になります。

お手入れ



- 内部の洗浄は自分で行わないでください。誤った方法で内部の洗浄を行うと、破損して火災や感電の原因になります。エアコン内部の洗浄は専門の業者に依頼してください。



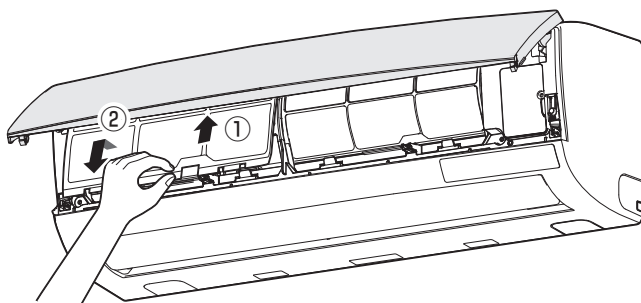
- お手入れのときは、不安定な台に乗らないでください。
- エアフィルター・前面パネルを水洗いしたときは、十分に乾かしてから取り付けてください。
- 室内機内部の金属部に触らないでください。

- シンナー、アルコール、ベンジン、アルカリ性・酸性の強い洗剤、漂白剤などは使用しないでください。

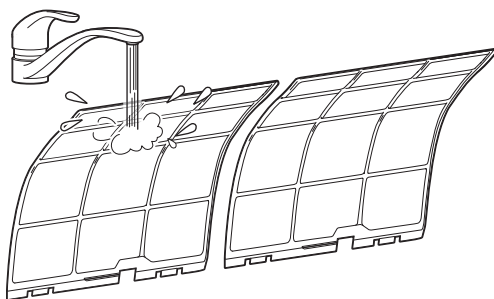
■エアフィルター 2週間に1回程度

1 前面パネルを開け、エアフィルターを外す

- ・前面パネルを、カクツとなって止まるまで開けてください。
- ・エアフィルター下部中央のつまみを持ち上げてから (①)、手前に引いて取り外してください (②)。



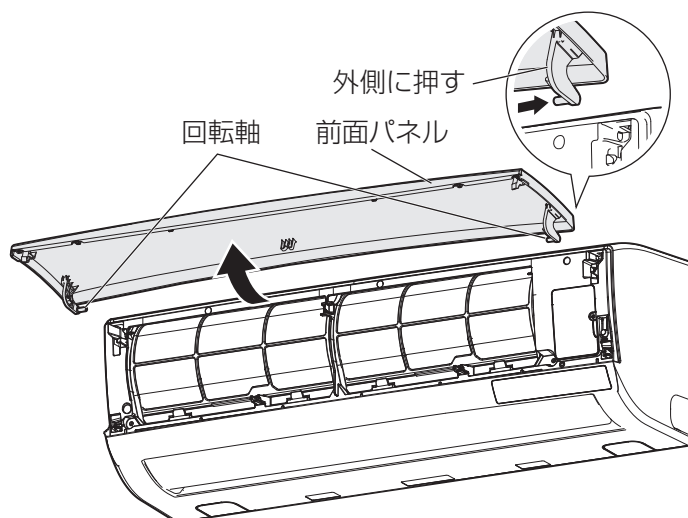
2 ほこりを掃除機などで吸い取るか、水洗いする



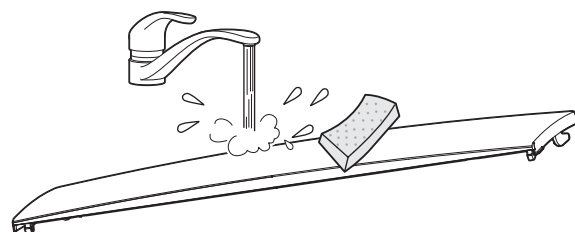
※水洗いした後は、よく乾かしてから取り付けてください。

■前面パネル

1 前面パネルを水平になるまで開け、回転軸を外側に押しながら、手前に引いて取り外す



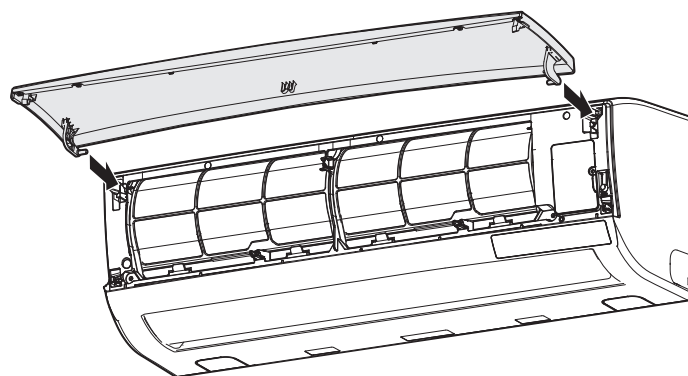
2 柔らかいスポンジなどで水洗いする



- ・汚れが落ちにくいときは、台所用中性洗剤で洗い、水でよく流し、よく乾かしてください。

前面パネルの取り付け方

前面パネルを水平にして、左右の回転軸を室内機両端の軸の溝に合わせて、押し込む



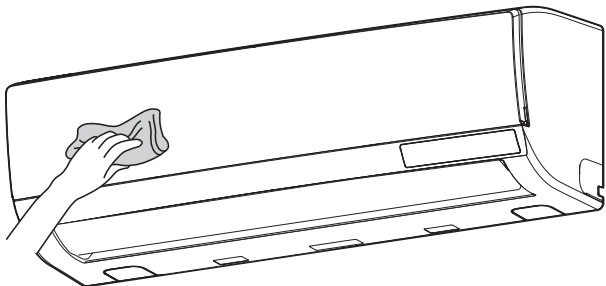
取り扱いかた

お手入れ つづき

■室内機表面

水またはぬるま湯（40℃以下）を含ませた柔らかい布をよく絞って、汚れを拭き取る

※ 汚れが落ちにくいときは、薄めた中性洗剤を含ませた布で拭いた後、固く絞った布などで洗剤分を拭き取ってください。



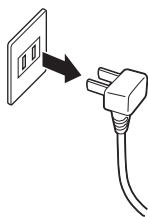
- 水をかけないでください。感電・けが・故障の原因になります。
- 化学ぞうきんを使用する際は、その注意書きにしたがってください。

■長期間使用しないときは

1 内部を乾燥させる

- ・ 設定温度**30℃**、風量 、風向上下 （スイング）で、3～4時間**冷房**運転を行い、内部を乾燥させてください。

2 運転を停止し、電源プラグを抜く



3 エアフィルターのお手入れをする

- ・ 13ページを参照してお手入れしてください。

4 リモコンの乾電池を抜く

■再び使い始めるときは

1 エアフィルターが取り付けられていることを確認する

2 エアコンの周囲がふさがれていないか確認する

3 リモコンに乾電池を入れる

4 電源プラグをコンセントに接続する

故障かな？と思ったら

使用中に異常が生じた場合は、修理を依頼される前に本書をよくお読みのうえ、以下の点を確認してください。

状 態	考えられる理由	処 置
電源が入らない	●電源プラグがコンセントに確実に差し込まれていない	●電源プラグをコンセントに確実に差し込んでください。
	●ブレーカーが切れている	●エアコンの回路のブレーカーを入にしてください。
風が止まる	●暖房運転中、室外機の自動霜取りが働くと、温風が停止する	●自動霜取りが終了すると、運転が再開します。
	●自動または冷房・暖房モードで風量自動モードで運転中、設定温度に達すると運転を停止する	●温度調節をしています。故障ではありません。
暖房なのに冷たい風が出る	●暖房運転時、室外機が自動霜取りをすると冷たい風が出ることがある	●故障ではありません。自動霜取りが終了すると、暖房運転に戻ります。
リモコンで操作できない	●リモコンの送信部を、室内機の受信部に向けていない	●5m以内の距離で、リモコンの送信部を、室内機の受信部に向けて、できるだけ受信部の正面から操作してください。
	●リモコンの電池が消耗している	●電池をすべて新しいものに交換してください。
	●電池の向きが合っていない	●電池を正しい向きにセットしてください。
	●リモコンの送信部と室内機の受信部の間に障害物がある	●障害物を取り除いてください。
風量の変更できない	●自動または除湿モードで運転している	●自動または除湿モードでは、風量は自動でコントロールされます。
風量が弱い	●自動または冷房・暖房モードを風量自動で運転中、部屋の温度が設定温度に近づいた	●自動または冷房・暖房モードを風量自動で運転中、部屋の温度が設定温度に近づくと、風量は低速になります。
	●エアフィルターにほこりなどが詰まっている	●エアフィルターをお手入れしてください。 (→P13)
上下フラップが全閉しない	●手で上下フラップを動かすと、停止したときに、上下フラップが全閉しないことがある	●次回運転後、停止時には上下フラップは全閉します。全閉しない場合、電源OFF後、一度電源プラグを抜き、1分程放置した後、再び差し込んでください。それでも全閉しない場合は、故障のおそれがあります。

取り扱いかた

こんなときは

故障かな？と思ったら つづき

室内機から霧が出る 室内機に水滴が付く	●湿度の高い空気が急に冷やされると、霧が出たり、水滴が付いたりする	●故障ではありません。 雨の日など、湿度が高いときに冷房する場合は、窓やドアを開けっ放しにしないでください。
室外機から湯気や水が出る	●暖房運転時、室外機が自動霜取りをすると湯気や水が発生することがある	●故障ではありません。
「ポコポコ」という音がする	●ドレンホースの水が逆流する	●部屋の内外の気圧差が大きいと、水が逆流することがあります。窓を少し開けて気圧差を減らすか、ドレンホースに逆流防止弁を取り付けるとなることがあります。
「プシュッ」という音がする	●運転の停止や切り替え時に、冷媒の流れが切り替わる	●故障ではありません。
「ビシッ」「パキッ」という音がする	●温度変化で樹脂部分が伸び縮みしている	●故障ではありません。
風がおう	●エアコンの運転中にたまったおいを吹き出している	●定期的に内部清浄機能を動作させてください。(→P12)
		●内部清浄機能でおいなどが取りきれない場合は、業者に洗浄を依頼してください。
部屋が冷えない・暖まらない	●部屋が面積の目安より広すぎる	●仕切りをして部屋を区切るなど、面積の目安内で使用してください。(→P18「仕様」)
	●窓やドアが開けっ放しになっている	●窓やドアを閉めて使用してください。
部屋が冷えない	●省エネ運転しているため、23℃以下にならない	●設定温度を23℃以下にしてください。(省エネ運転は終了します。)(→P10)
設定温度が変わる	●おやすみタイマーを設定している	●おやすみタイマー設定中は、設定温度が徐々に変わります。(→P11)

それでも解決できないときは

お買い上げの販売店またはアイリスコールにお問い合わせください。



警告

●自分で分解・修理・改造しないでください。

長期使用製品について

長期間の使用により以下のような症状が見られた場合は、すぐに電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店またはアイリスコールにご相談ください。

- 通常使用時に室内機から水がもれる
- 電源コードが折れ曲がったり、破損したりしている
- 据付に問題がなく、リモコンに新しい電池を入れても、リモコンで操作ができない
- 電源コードに触れると電源が切れたり入ったりする
- ブレーカーがひんぱんに切れる
- 焦げたようなにおいがする



使用中止

すぐに電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店またはアイリスコールにご相談ください。

■ 設計上の標準使用期間について

JIS基準に基づく標準的な使用条件下で使用した場合に、安全上支障なく使用することができる標準的な期間を、製品本体に表示してあります。無料修理を行う保証期間とは異なります。

		冷房	暖房
環境条件	電源電圧	単相100V	
	周波数	50 / 60Hz	
	温度（室内）	27℃（乾球温度）	20℃（乾球温度）
	湿度（室内）	47%（湿球温度：19℃）	59%（湿球温度：15℃）
	温度（室外）	35℃（乾球温度）	7℃（乾球温度）
	湿度（室外）	40%（湿球温度：24℃）	87%（湿球温度：6℃）
	設置条件	据付工事説明書による標準的な設置	
負荷条件	住宅	木造平屋、南向き和室、居間	
	部屋の広さ	製品能力に見合った広さの部屋	
想定時間	1年間の使用日数（東京モデル）	6月2日から9月21日までの 112日間	10月28日から翌年4月14日までの 169日間
	1日の使用時間	9時間／日	7時間／日
	1年間の使用時間	1,008時間	1,183時間



注意

製品の劣化や故障は様々な要因に影響されます。表記の標準使用期間に満たないときでも、上記のような異常が見られたときには、ただちに使用を中止し、お買い上げの販売店またはアイリスコールにご相談ください。

仕様

型番	室内機		IRR-2222C
	室外機		IUF-2222
電源			単相100V、50 / 60Hz
電源プラグ形状			㊦
冷房	定格能力		2.2 (0.7 ～ 3.1) kW
	消費電力		530 (130 ～ 800) W
	運転電流		6.2A
	運転音 (音響パワーレベル)	室内機	57dB
		室外機	57dB
	面積の目安	鉄筋アパート南向き洋室	15㎡ (9畳)
木造南向き和室		10㎡ (6畳)	
暖房	定格能力 (標準)		2.2 (0.5 ～ 3.9) kW
	消費電力 (標準)		445 (110 ～ 1,105) W
	運転電流		5.2 (最大15.0) A
	運転音 (音響パワーレベル)	室内機	59dB
		室外機	57dB
	面積の目安	鉄筋アパート南向き洋室	10㎡ (6畳)
木造南向き和室		8㎡ (5畳)	
通年エネルギー消費効率 (JIS C 9612 : 2013)			5.8
区分名			A
外形寸法	室内機		幅795×奥行230×高さ250mm
	室外機		幅660(+71※1)×奥行240×高さ530mm
質量	室内機		9.5kg
	室外機		22.5kg

※ 待機中もマイコンを働かせるため、0.7Wの電力を消費します。

※ 商品の仕様は予告なく変更することがあります。

※ J-Moss (JIS C 0950 : 2008) の規定に基づき、対象となる6物質 (鉛・水銀・カドミウム・六価クロム・PBB・PBDE) の含有について情報を公開しています。詳しくはホームページをご覧ください。

<https://www.irisohyama.co.jp/safetyinfo/importanttopics/j-moss.html>

※¹ バルブカバーと取っ手を含んだ寸法です

保証とアフターサービス

必ずお読みください。

■保証書

お買い上げの際に、所定の事項が記入されている保証書をお買い上げの販売店より必ずお受け取りください。

保証書がないと、保証期間内でも代金を請求させていただく場合がありますので、大切に保管してください。

■保証期間

保証期間は、保証書に記載されています。

保証期間内に故障した場合は、保証規定にしたがって修理させていただきます。

■保証期間経過後の修理

お買い上げの販売店またはアイリスコールにご相談ください。修理により製品の機能が維持できる場合は、ご要望により有料にて修理いたします。

■補修用性能部品の保有期間について

当社はこの製品の補修用性能部品の製造打ち切り後、9年間保有しています。

性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■アフターサービスについて

ご不明な点はお買い上げの販売店またはアイリスコールにお問い合わせください。

アイリスオーヤマ株式会社 〒980-8510 仙台市青葉区五橋2丁目12番1号
ホームページ <https://www.irisohyama.co.jp/>

製品に関するお問い合わせ（通話料無料）

アイリスコール 0800-919-0770

9:00～17:00（年末年始・会社都合による休日を除く）

●お問い合わせの際は、製品の型番をお調べいただき、取扱説明書・ご購入履歴のわかるもの・メモのご用意をお願いします。

お客様サポート
24時間365日
Web即時回答サービス



ルームエアコン据付工事説明書

室内機	IRR-2222C
室外機	IUF-2222

安全上の注意

据付工事の前に、この「安全上の注意」をよく読んでから据付してください。
据付工事説明書の記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負うおそれがある内容を示しています。

- 据付工事は、お買い上げの販売店または据付専門業者に依頼する
自分で据付すると、火災・破裂・感電・けが・水もれの原因になります。
- 据付工事は、冷媒R32用またはR410A用に製造された専用のツール・配管部材を使用し、この据付工事説明書に従って確実に行う
専用の配管部材を使用しなかったり、据付に不備があると、火災・破裂・感電・けが・水もれの原因になります。
- 据付は、強度を確認し、重量に十分耐える場所に確実に行う
耐荷重不足や取り付けが不完全なときは、機器の落下により、けがの原因になります。
- 室外機は、ベランダの手すりの近くに据付しない
子供が上に登り、手すりを乗り越えて、落下事故につながります。
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」、および据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する
また、電圧は製品の定格電圧に合わせる
電源回路容量不足や施工不備があると、火災・感電の原因になります。
- 室内外機間の配線は、途中接続やより線の使用はせず、所定のケーブルを使用して確実に行う
配線が不完全なときは、発熱・火災・感電の原因になります。
- 室内外機間の配線は、端子カバーを確実に取り付け配線を固定し、端子接続部に外力が伝わらないようにする
カバーの取り付けが不完全なときは、端子部の発熱・感電・火災の原因になります。
- 据付工事部品は、必ず付属部品または指定の部品を使用する
使用しないと、機器の落下・水もれ・火災・感電の原因になります。
- エアコンの据付や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒(R32)以外の空気などを混入させない
空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧となり、破裂によるけがなどの原因になります。
- 据付工事完了後、冷媒ガスがもれていないことを確認する
冷媒ガスが室内にもれ、ファンヒーター・ストーブ・コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 作業中に冷媒ガスがもれたときは換気をする
冷媒ガスが火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。

- アース工事を行う
アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全なときは、感電の原因になります。
- 浴室など、水がかかったり、湿気が多い場所には据付しない
感電・火災の原因になります。
- 据付工事は、この据付工事説明書に従って行う
据付に不備があると、火災・破裂・感電・けが・水もれの原因になります。
- 電源プラグを差し込むときは、電源プラグ側だけでなく、コンセント側にもほこりの付着・詰まり・がたつきがないことを確認し、刃の根元まで確実に差し込む
ほこりの付着・詰まり・がたつきがあると、火災・感電の原因になります。コンセントにがたつきがある場合は、交換してください。
- 据付作業では運転する前に、次のことを確認する
 - ・配管接続は確実にに行い、もれがないこと
 - ・2方弁・3方弁両方とも開いていること2方弁・3方弁が閉まった状態で圧縮機を運転すると、異常高圧となり圧縮機などの部品の破損の原因になります。また接続部でもれがあると、空気を吸い込むなどして、さらに異常高圧となり、破裂・けがの原因になります。
- ポンプダウン作業では、次のことを確実に行う
 - ・冷凍サイクル内に空気を混入させない
 - ・2方弁・3方弁両方とも閉じたあと、圧縮機を停止させ冷媒配管を外す圧縮機を運転したまま2方弁・3方弁が開放状態で冷媒配管を外すと、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になって、破裂・けがなどの原因になります。
- 電源コードは、極端に折り曲げたり、束ねたりしない
また、加工・途中接続・タコ足配線はしない
接触不良・絶縁不良・許容電流オーバーなどにより、火災・感電の原因になります。
- 指定冷媒以外は使用（冷媒補充・入れ替え）しない
指定以外の冷媒を使用すると、機器の故障・破裂・けがなどの原因になります。
- 室内機を持つときは、前面パネルに手を掛けない
作業中に前面パネルが開き、機器の落下によりけがの原因になります。



注意

誤った取り扱いをすると、人がけがをしたり、物的損害が発生する内容を示しています。

- 据付場所によっては漏電遮断器の取り付けが必要
漏電遮断器が取り付けられていないと、感電の原因になることがあります。
- ドレン工事は、据付工事説明書に従って確実に排水するよう配管する
屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
- フレアナットは、トルクレンチを使用し、指定の方法で締め付ける
フレアナットを締め付け過ぎると、長期間経過後フレアナットが割れ、冷媒もれの原因になります。
- 据付作業では手袋*を着用する
着用しないと、部品などでけがをすることがあります。（*軍手などの厚手の手袋）

- 室外機の吸込口やアルミフィンに触らない
けがの原因になります。
- 新築物件・リフォームなどの内装工事や、床面のワックスかけ時には、エアコンを運転しない
ワックスなどの揮発成分がエアコン内部に付着し、水もれや水飛びの原因になります。作業終了後は、エアコンを運転する前に十分に換気を行ってください。
- 室外機は、小動物のすみかになるような場所には据付しない
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、火災・故障の原因になることがあります。また、お客様には、周辺をきれいに保つことを依頼してください。



この家庭用エアコンには、GWP（地球温暖化係数）が675のフロン類（R32）が封入されています。フロン類が排出されると地球温暖化が進みます。移設・修理・廃棄するときは、フロン類の回収が必要です。

廃棄に関する注意

家電リサイクル法では、お客様が使用済みのルームエアコンを廃棄される場合は、収集・運搬料金、再商品化等料金をお支払いいただき、対象商品を販売店や市町村に適正に引き渡すことが求められています。

- このエアコンは、冷媒R32を使用しています。
据付にはR32もしくはR410A対応の工具を使用してください。

冷媒配管について

配管キットを使用するとき

- ・必ず、配管肉厚が0.8mmのものを使用してください。

一般の銅管を使用するとき

- ・銅管はJIS H3300「銅および銅合金継目無管」のC1220Tタイプで、内部の付着油量40mg/10m以下、配管肉厚は0.8mmのものを使用してください。
 - ・アルミ材を使用した冷媒配管は使用しないでください。
- フレアナットおよびフレア加工**
- ・フレアナットはエアコン本体付属のものに交換してください。

据付工事完了後、「13 試運転」と「14 点検」の確認を行い、本説明書をお客様にお渡しください。
また、本説明書は、取扱説明書とともに保管していただくように、お客様に依頼してください。

据付場所の選定

■ 据付場所の選定

室内ユニット

- ・据付板の周囲に「穴あけ寸法図」に示した間隔を取れる場所
- ・吸込口、吹出口の近くに障害物のない場所
- ・重量に耐える場所
- ・直射日光が当たらない場所
- ・温風（冷風）が部屋全体に行きわたる場所
- ・高周波機器、無線機器等の影響を受けない所
- ・テレビやステレオなどの機器から1m以上離す（映像の乱れや雑音が入ることがあります。）
- ・カーテンボックス、カーテンレールから離す
- ・エアコン（吹き出し口）と火災警報器は、1.5m以上離す
- ・浴室など、水がかかったり、湿気が多かったりする場所は避ける
- ・室内ユニットの下面から床まで1.8m以上離す

室外ユニット

- ・室外ユニットの周囲に、「7 室外機の取り付け」で示した間隔を取れる場所
- ・強風の当たらない場所（特にビルの屋上では、風が強く室外ファンが破損することがあります。）
- ・風通しがよく吸込口・吹出口の近くに障害物のない場所
- ・ユニットの重量に十分耐える場所で水平位置を保てる場所
- ・運転音や振動が増大しない場所
- ・可燃性ガスのもれるおそれのない場所
- ・排水されたドレン水が流れても問題ない場所
- ・接続配管の長さ、室内外ユニットの許容落差は次の通りとすること

機種名	接続配管長さ	落差
IRR-2222C	15m (ただし10m以上は冷媒補充が必要)	10m

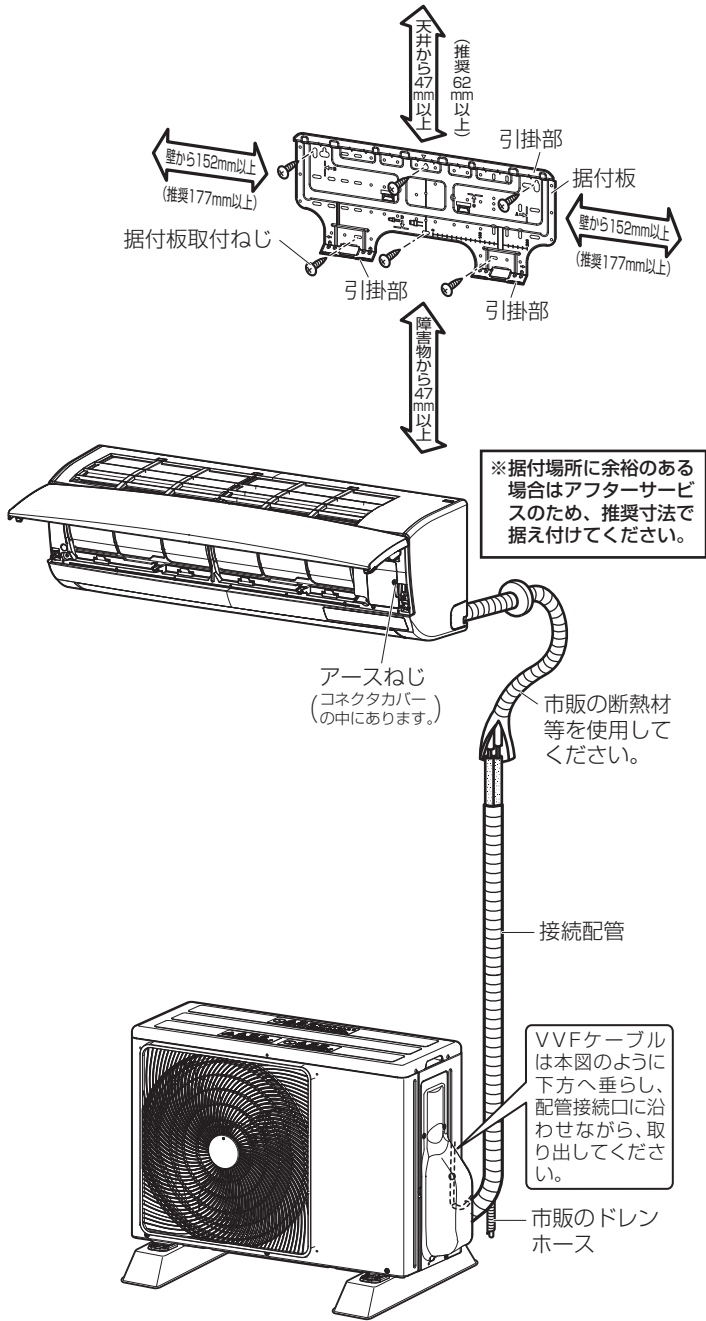
- ※冷媒は、延長1m当たり20g補充してください。
- ・雨や直射日光が当たる場所への据付には、市販の「日除け屋根」をご利用ください。

以下のような所は避けてください。

- ・塩害地や、ビル上層部など、常時強風が当たる所
- ・油・蒸気・油煙・腐食性ガスの発生する所
- ・温泉地のように硫化ガスの発生する所

お願い

公団アパートやマンションなどの鉄筋コンクリート造建築物で、室外機を、ベランダ・天井から吊り下げて据付するときは、室外機と天井のすき間を80mm以上空けてください。また、室外機と据付具の間に防振ゴムを入れてください。



アイリスオーヤマ株式会社

〒980-8510 仙台市青葉区五橋2丁目12番1号
ホームページ <https://www.irisohyama.co.jp/>

製品に関するお問い合わせ（通話料無料）

アイリスコール 0800-919-0770

9:00～17:00（年末年始・会社都合による休日を除く）

●お問い合わせの際は、製品の型番をお調べいただき、取扱説明書・ご購入履歴のわかるもの・メモをご用意をお願いします。

お客様サポート

24時間365日

Web即時回答サービス

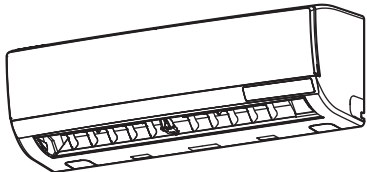


本体パネル・前面パネル・上下フラップの取り外しかた

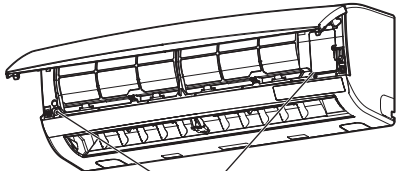
※通常、本体パネル・前面パネル・上下フラップを取り外す必要はありません。取り外す必要があるときは、以下の手順で行ってください。
※本体パネル・前面パネル・上下フラップを取り外すときは、運転を停止し、電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ 本体パネルの取り外しかた

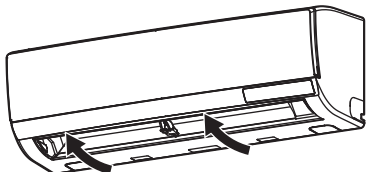
- ①上下フラップを取り外します。



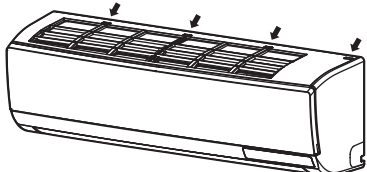
- ②前面パネルを開け、本体パネル固定ねじ（2本）を外します。



- ③前面パネルを閉じて、吹出口下部に親指を入れ、本体パネル下部を持ち上げます。

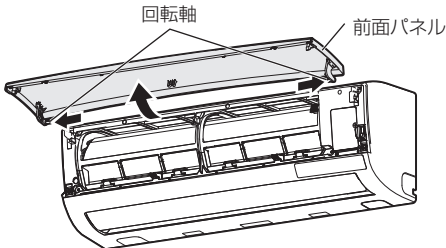


- ④本体パネル天面のつめ部（4か所）に手を掛け、後縁をめくるようにしてつめを外してください。



■ 前面パネルの取り外しかた

- ・前面パネルを開け、回転軸を外側に押しながら、手前に引いて取り外してください。

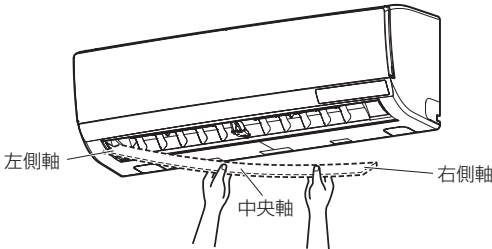


■ 前面パネルの取り付けかた

- ・前面パネルを水平にして左右の回転軸を本体両端の軸の溝に合わせて押し込んでください。

■ 上下フラップの取り外しかた

- ①上下フラップを開きます。
- ②上下フラップの右半分をたわませて中央軸を外し、下側にたわませます。
- ③右側軸を先に外し、そのあとに左側軸を外します。



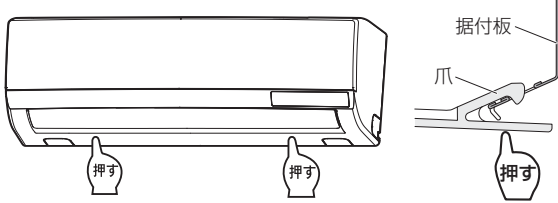
■ 上下フラップの取り付けかた

- ・左側、右側、中央の順で軸にはめ込みます。

据付後の取り外しかた

■ 室内ユニット

- ・室内ユニット下側の「PUSH」を上を押しながら手前に引きます。



■ 室外ユニット

- ・地球環境保護の観点から、ポンプダウン（冷媒回収）をしてから取り外します。

■ 既設配管を再利用のときの注意

- ・古いエアコンを取り外すときは、必ずポンプダウンを行い、冷媒・冷凍機油の回収を行ってください。
- ・配管肉厚が0.8mmあること（JIS規格の配管）
- ・フレアはR32対応に切り直し、φ12.7mmの既設配管のときはフレアナットの変換が必要です。
- ・ポンプダウンができないとき・配管内が極端に汚れているときは、洗浄するか新しい配管に交換してください。
- ・施工には、R32対応の工具を使用してください。
- ・一部の機種では、接続配管径の仕様が異なりますので、このときは、買い換え後のエアコンに合った新しい配管を使用してください。
- ・配管に腐食・亀裂・傷・変形・劣化などがないか、点検してください。
- ・配管以外の部材（断熱材や配管支持部材など）も再使用可能か点検してください。
- ・再使用不可能のときは、補修または新しい配管に交換してください。



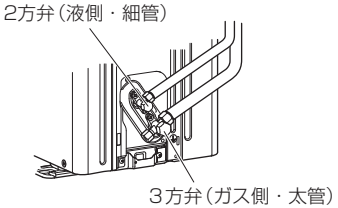
ポンプダウン作業では、次のことを確実に行ってください

- 冷凍サイクル内に空気を混入させない
- 2方弁・3方弁両方とも閉じたあと、圧縮機を停止させ冷媒配管を外す

圧縮機を運転したまま2方弁・3方弁が開放状態で冷媒配管を外すと、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂・けがなどの原因になります。

ポンプダウンのしかた（移設時など）

- ①室内機の強制運転ボタンを約10秒押します。（ピッと音がして冷房運転が始まります）
- ②5分～10分後に2方弁の弁棒を閉めます。
- ③更に2分～3分冷房運転後、3方弁の弁棒を閉め、運転を停止します。
- ④液側とガス側の接続配管を取り外します。

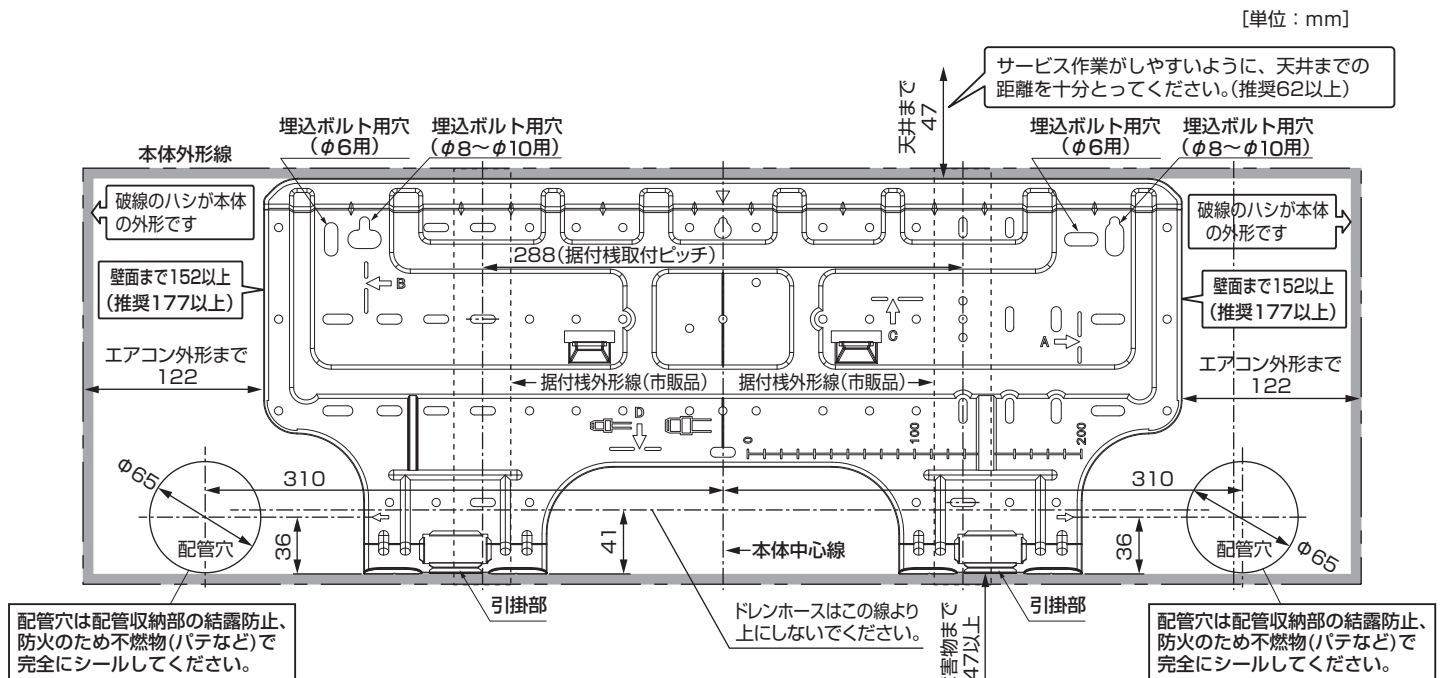


同梱付属部品

品番	付属部品	個数	品番	付属部品	個数	品番	付属部品	個数	付属品	個数
①	据付板	1	③	ドレンニップル*	1	⑤	単4形乾電池	2	据付工事説明書	1
②	据付板取付ねじ	6	④	ワイヤレスリモコン	1				取扱説明書	1
									保証書	1

※③ドレンニップルは室外機に同梱されています。

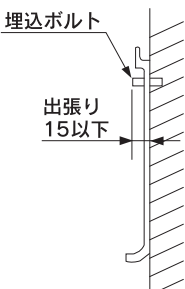
穴あけ寸法図



据付板固定

据付板を壁に直付けする場合

1. 据付板は最上部両端と下部の引掛部付近を必ずねじで固定してください。
2. 据付板の周りは間隔をあけ、壁内の構造材をさがして水平に取り付けます。（4ヵ所以上をねじで固定してください。）
3. 据付板の上側に水準器をのせて水平を確認します。
4. 埋込ボルトを利用するときは、右図のように埋込ボルト用穴を利用して固定します。（埋込ボルトの出張り寸法は15mm以下にしてください。）

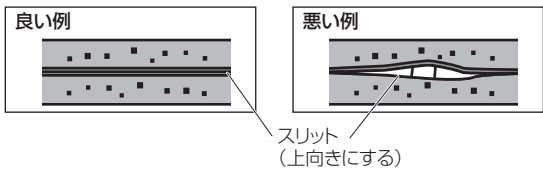


据付板刻印A・B・C・Dからエアコン外形までの寸法

方向	エアコン外形までの寸法
右側	刻印Aの ➡ から 182mm
左側	刻印Bの ➡ から 182mm
上側	刻印Cの ➡ から 77mm
下側	刻印Dの ➡ から 77mm

■ 配管の断熱方法について

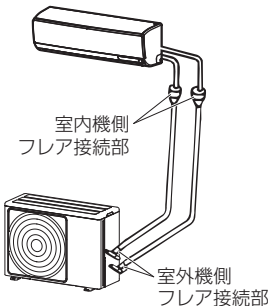
- 断熱材で配管をしっかり覆った後にテープ処理をしてください。



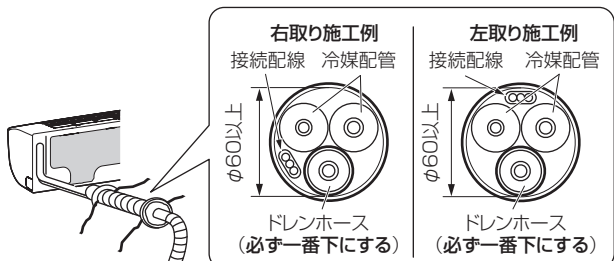
※隙間があると結露して水もれの原因になります。
※スリットは上向きにしてください。

フレア配管接続部の締付トルク

室内機・室外機の各フレア配管接続部は、トルクレンチを使用して、規定の締め付けトルクで確実に締め付けてください。接続に不備があると、ガスもれだけでなく、回路故障の原因にもなります。



壁穴に通すときの、接続配線・冷媒配管・ドレンホースの推奨配置



※壁を貫通させるときは、必ず**ウォールキャップ**と**貫通スリーブ**を使用してください。
※集合住宅に据付する場合で、配管類が防火区画を貫通するときは、耐火処置として**耐火キャップ**が必要です。
※配管接続時に、ごみ・水分・砂・切粉などが配管に入らないようにしてください。
※配管接続部の断熱材は10mm程度ラップさせ、隙間が開かないようにテープでシールしてください。

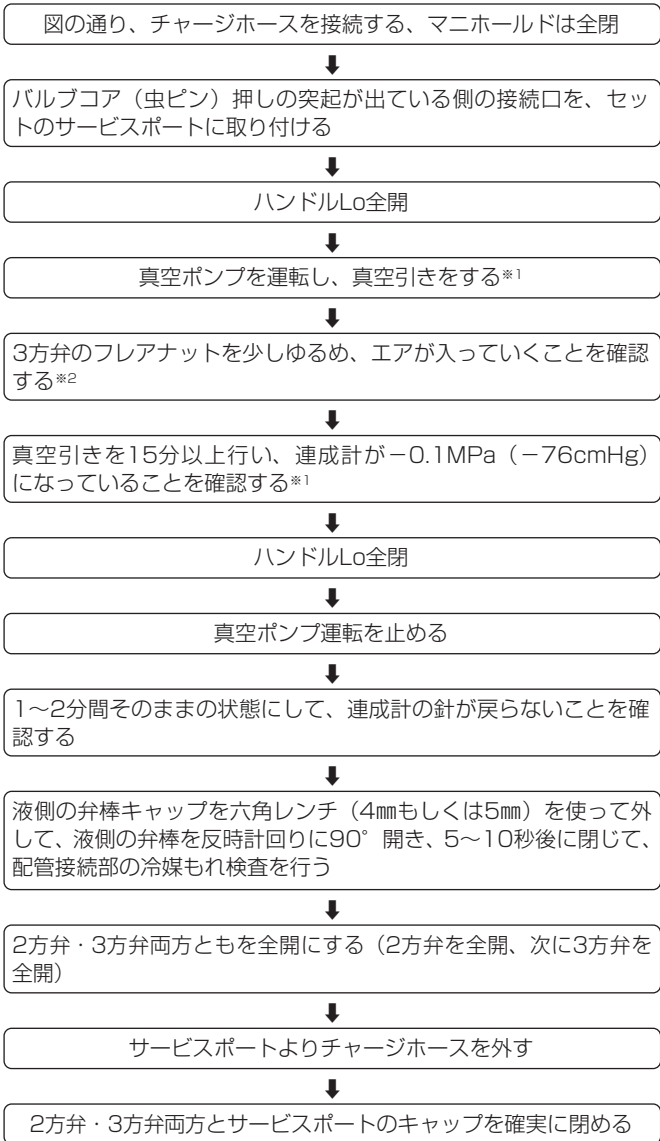
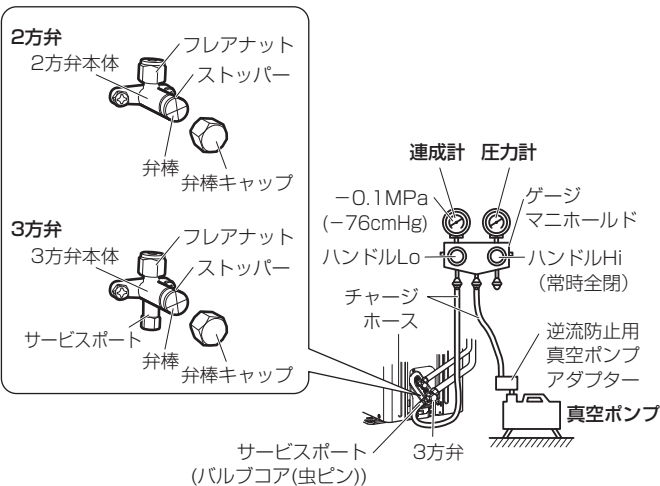
9 エアパージ

※エアパージ（接続配管内の空気のパージ）は、地球環境保護の観点から「真空ポンプ方式」でお願いします。
※地球環境保護のため、フロンガスを大気中に放出しないでください。
※真空ポンプ方式にてセット内の残留空気（窒素など）を除却してください。空気が残留すると能力低下などをまねくことがあります。

操作上の注意

- トルクレンチで規定の締め付けトルクで締め付けてください。

	二面幅	締め付けトルク
弁棒キャップ	H17	14～18N・m（1.4～1.8kgf・m）
	H19	
	H21	
	H22	33～42N・m（3.4～4.3kgf・m）
	H27	
サービスポート	H17	14～18N・m（1.4～1.8kgf・m）



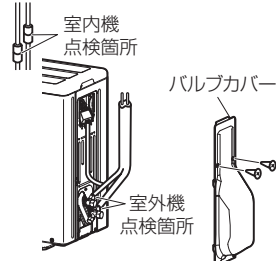
※1 真空ポンプは、必ず逆流防止機構付きを使用してください。また、真空ポンプ・真空ポンプアダプター及びゲージマニホールドは、使用前に各ツールに付属の取扱説明書を読んで、正しく使用してください。真空ポンプは、油がオイルゲージの指定線まで入っていることを確認してください。
※2 エアが入っていないときは、チャージホースのバルブコア押しの突起が出ている側が、サービスポートにしっかり接続されているか、再確認してください。

接続部から冷媒がもれるとき

※フレアナットが規定トルクで締め付けられているか、再確認してください。規定トルクで締め付けられていても、冷媒がもれるときは、フレア加工の不具合が考えられます。冷媒回収などによりエアコン内に冷媒が無い状態にし、もれ箇所を修正した後、再接続して真空引きを行い、規定量の新規冷媒を液冷媒で再充填してください。このとき、規定量以外の冷媒は絶対に入れないでください。

10 ガスもれ検査

・R32には、HFC冷媒（R32・R410A・R134aなど）専用のリークディテクターを使用して、配管接続部のリークテストを確実に実施してください。

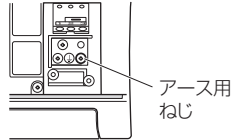


11 アース工事

- 室内機または室外機のどちらか一方のアース端子より接地を行ってください。

■ 室内機からアースを行う場合

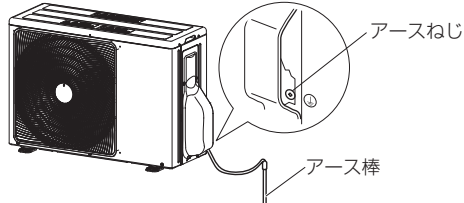
- 端子台カバー内のアース用ネジに接続してください。



※アース線は、同梱されていません。（現地調達：直径1.6mmまたは断面積2mm²以上）
※アース工事を行うときには、電源プラグを抜いた状態で実施してください。
※漏電遮断器が動く場合は、衝撃波不動作形の漏電遮断器に交換してください。
※漏電警報器が動く場合は漏電警報器の設定を変更してください。

■ 室外機からアースを行う場合

- アース棒（別売品）を使用してください。



■ 接地の基準

このエアコンは、**接地の基準に従ってアース工事をしてください。**
・接地の基準はエアコンの電源電圧および接地場所により異なります。下表により接地工事を行ってください。

エアコン据付場所	接地工事
水気のある場所に据付する場合	漏電遮断機を取り付け、さらにD種接地工事が必要です。注⑥
湿気のある場所に据付する場合	D種接地工事が必要です。注⑥
乾燥した場所に据付する場合	D種接地工事は、法的には除外されていますが、安全のため接地工事をしてください。注⑥



- 次のようなものにアース線を接続すると危険ですので、絶対に行わないでください。
水道管・ガス管・避雷針・電話線

D種接地工事について（注⑥）

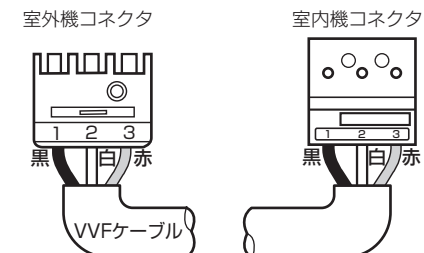
- 接地工事は電気工事士の方が行ってください。
- 接地抵抗は100Ω以下であることを確認してください。ただし漏電遮断器を取り付けた場合は500Ω以下であることを確認してください。

乾燥した場所に据付する場合（注⑥）

- 接地抵抗は100Ω以下になるようにしてください。最悪でも250Ω以下であることを確認してください。

12 接続配線の接続（室外機）

- 室内機の配線に合わせて配線します。
 - バルブカバーをサイドキャビネットにねじ3本でしっかり固定します。
- ※皮むき時に芯線の被覆を傷つけないでください。



13 試運転

- ① 表面の注意書・包装用シール・テープをすべて外してください。
 - ② コンセントに電源プラグを差し込みます。
 - ③ リモコンの「冷房」または「暖房」を押します。
冷房の場合、リモコンで設定温度を17℃にします。
暖房の場合、リモコンで設定温度を30℃にします。
- ・約3分後に室外機が運転を開始し、冷風（暖房の場合は温風）を吹き出します。

3分間再起動防止タイマーについて

エアコンを起動するときや運転を切り替えたときは、約3分間運転が始まりません。これは本体保護のためで、故障ではありません。

- ④ 試運転確認終了後、「停止」を押し、運転を停止します。

14 点検

- 据付工事完了後、□の中に✓印を入れて確認し、このチェックシートをお客様にお渡しください。

- ☐ 据付場所は、エアコンの重量に十分に耐え、騒音や振動が増大しない場所です。
- ☐ 電源は専用回路を使用し、電源電圧に問題のないことを確認しました。
- ☐ 電源コードの中間接続や延長コードの使用、タコ足配線は行っていません。
- ☐ コンセントと電源プラグにがたつきはありません。
- ☐ 内外接続線の中間接続は行っていません。
- ☐ アース線の接続は確実にを行いました。
- ☐ 壁穴部のシールは確実にを行いました。
- ☐ 配管接続部のリークテストを行い、冷媒がもれていないことを確認しました。
- ☐ 配管は断熱材でしっかり覆い、テープでシールしました。
- ☐ 2方弁・3方弁両方の弁棒は全開にしました。
- ☐ 室内機に水を流して、確実に排水されることを確認しました。
- ☐ 試運転を行い、冷房・暖房運転が正常であることを確認しました。
- ☐ 取扱説明書をもとに、お客様に正しい取扱方法と運転方法を説明しました。

確認日: 年 月 日

確認者:

工事(施工)会社名:

問合わせ先 電話番号: